

廣峯ものがたり（四月）
農耕神と国家安泰

「日本の食」

広峰山の桜に誘われて、春の大祭を見物に廣峯神社に参詣する。姫路市指定の重要無形民俗文化財である春季大祭『御田植祭』と『祈穀祭』は、一千有余年の歴史があり、古より綿々と続く日本の美しき伝統と文化を今に伝える貴重な祭礼になっています。

四月三日の御田植祭は、拝殿前に設けられた早稲・中稲・晩稲の仮田で、田人や早乙女たちが田植への所作を行い、四月十八日の祈穀祭「穂揃式・走馬式」は、大きく実った稲穂を本殿に奉納して、秋にはこの様に豊かな収穫があるようにと祈り、ご神託により稲作の豊凶を占い、数頭の馬を走らせ五穀豊穰を祈願します。この一連のお祭りは、全国的にもたいへん珍しいそうです。



宮司さんによると、この春季大祭は、農耕神の素戔鳴尊と御后神の奇稲田媛命、その御子神たちに、日本人の主食であるお米の豊作と食の豊かな恵みを祈り、食全体の安全と安心、さらには国家国民の繁栄と安泰を祈願し、日頃の神恩にも感謝する重要な祭礼ですと教えて頂きました。

お田植囃子が歌われ、昔ながらの衣裳で田植えする早乙女たち、王朝時代の武官の衣裳で馬に乗り、境内を颯爽と駆ける若者たちの姿に、古き良き日本を感じました。また、播州地方の農家、農区の方も多数参拝され、五穀豊穰を祈願されていました。